

(様式2)

## 管内養豚場におけるサルモネラ症の発生事例

: 飯田家保 三木一真

1 令和4年8月、管内養豚一貫経営農場の離乳舎で元  
2 気消失、発育不良、食欲減退等を呈し、死亡数増加。  
3 発症豚3頭の病性鑑定実施。共通所見は空腸～回腸壁  
4 菲薄化、大腸内粘液便、腸間膜リンパ節腫脹。立入調  
5 査を実施し、豚舎内環境材料から *Salmonella*  
6 *Typhimurium* (血清型 04:i:-) (ST) および *Salmonella*  
7 *Infantis* (SI) を分離。壁際や配管に糞等ラットサイ  
8 ンを確認したため、畜舎内の消毒とネズミ対策を指示。  
9 発症豚は抗生剤で治療。症状改善するも、約30日肥育  
10 期間延長。9月、11月に再度立入、環境材料を検査。  
11 STは分離されず、離乳舎でSIを分離。試験的に未治  
12 療の豚房と治療する豚房を設定するが、未治療豚は約  
13 50日齢で発症。引き続き、離乳豚全頭の治療とともに、  
14 モニタリング検査を継続。結果に応じ生菌剤使用を検  
15 討。サルモネラ症は清浄化に時間がかかることから、  
16 日頃の衛生対策の徹底継続が発生予防のために重要と  
17 推察。